

研究主題

「外国人子女教育における教科・日本語指導の研究」

副 主 題

「習熟度別指導、母語による付加的指導、個に応じた年間指導計画の充実改善」  
 (趣旨): 今年度は太田市外国人児童生徒教育の指針により、ブロック別集中校システムによる指導体制を組んだ。その中で日本語指導では、日常会話が困難な初級の生徒と、中級、上級の生徒とそれぞれ別の教員が担当するという複数の指導者による習熟度別指導が可能となった。しかし、日常会話は流暢であっても、一時帰国や不登校による学習経験の欠如から、教科学習の基礎がほとんど理解されていない生徒も増加してきている。こういった外国人生徒に対して、今年度は日本語指導だけでなく、算数・数学・英語の習熟度別指導を通じて教科の基礎学力や学習習慣の向上をめざした研究をする必要があると考えた。

学年にとらわれない習熟度別グループによる系統的・継続的な新カリキュラムを組むことで、児童生徒が学習における「知識・理解」における到達目標を明確にし、積極的に授業に取り組めるようになり、結果的に学力が向上する者も出てくるであろう。また、学習への自信や意欲が高まることで、放課後の補習授業にも積極的に参加し、比較的身につけづらい「数学的な思考」などの観点においても指導援助できるものとする。

国際化推進地域の概要

1 平成16年9月1日現在の在籍児童生徒数

	公立小学校		公立中学校		合計		小学校	中学校
	人数	校数	人数	校数	人数	校数		
海外帰国児童生徒在籍 (海外に1年以上在留し帰国 後3年以内)数	14	6	1	1	15	7	1	1
中国等帰国児童生徒在籍数	2	2	0	0	2	2	0	0
日本語指導が必要な外国人児童 生徒在籍数	209	12	48	6	257	18	53	9

2 地域の特色(帰国・外国人児童生徒の分布状況等の概要)

富士重工、オギワラ鉄鋼、シゲル工業等の自動車産業や鉄鋼業等が盛んな地域のため、外国人労働者が就労しやすい環境がある。また、アメリカにもその関係の会社や工場が進出しているため、帰国子女等も多い地域である。このような理由から帰国外国人児童生徒が多く在籍しやすい環境にあると言える。

Aセンター校(小学校)は、太田市の南に位置し、大泉町が隣接している。大泉町は、町民の14%を超える南米系外国人登録者を有しており、13年前頃から、本校の外国人児童数も増え始めた。現在、ブラジル、ペルー、イラン、フィリピン、韓国、中国の国籍を持つ外国人児童が在籍し、太田市の中では最も外国人児童数の多い学校となっている。

Bセンター校(中学校)は、数年前までは、日本語を覚えきれないまま何年か

で母国に帰る生徒も多かったが、現在では定住する家族が増えて、小さい頃から流暢に日本語を話す子どもたちが増えている。ブラジル、ロシアの国籍を持つ生徒が在籍し、17年度はその生徒数が増加傾向にある。

### 3 帰国・外国人児童生徒の実態（母語、在日期間、日本語能力の程度、学校生活の適応状況等の概要）

#### 1 Aセンター校（小学校）（外国人児童生徒42名）

本校の外国籍児童は、中南米から編入する児童がほとんどで、その保護者の多くは就労を目的として来日している。最近では、日本で生まれた世代が入学をしてくるようになり、滞在期間も4、5年を越えて在日したり、永住を希望して帰化申請を出したりする家族もみられる。

日本で生まれたり、低学年から編入したりする外国人児童は、十分な母国語教育を受けておらず、母国語での表記ができないだけでなく、親とのコミュニケーションもうまくとれないという現状もある。そのため、下校後、ブラジルの塾へ通って、母語を忘れないようにしている熱心な家庭もみられる。高学年から編入した児童は、円滑に学級にとけ込んで適応するケースと、難しい勉強や、まわりの児童になじめず、登校を渋ってしまうケースの両極面がある。

また中には、日本の学校に編入したものの、適応できずに退学し、市内や、近隣にあるブラジル人学校へ移ってしまうケースもある。

本校では、登校を渋りがちな外国人児童に対し、保護者、学級担任、管理職を交えた話し合いが敏速に行われ、今年、本校に通級している5、6年生の外国人児童は順調に学校生活を送っている。その一方で日本人児童とのトラブル、または外国人児童同士でのトラブルも絶えず、学級担任との連携のもと、生徒指導に時間を費やすことも多い。充実した学校生活を送っている外国人児童の背景をみると、本人のやる気、性格だけでなく、家庭の協力、学級の協力があったのと思われる。

#### 2 Bセンター校（中学校）（外国人児童生徒13名）

本校の日本語指導では、外国人生徒が母学級での理解が難しい場合に、取り出して日本語教室で日本語指導をしたり、指導助手がその授業に入って通訳しながら生徒の理解を補助したりしている。特に日本語が初めての生徒は国語だけでなく、数学、社会、理科においても母学級での学習は困難である。また、日常会話は流暢であっても、不登校による学習経験の欠如から基礎が全く理解されていない生徒もいる。こういった外国人生徒にとって、生涯を通して本当の学力とは何かを考えた場合、どんな状況でも生きていく上に必要な力は、「言葉と計算力」と考える。そこで、個に応じた効果的な日本語指導と教科指導（数学・英語）をどのようにしたらよいか研究するにいたった。

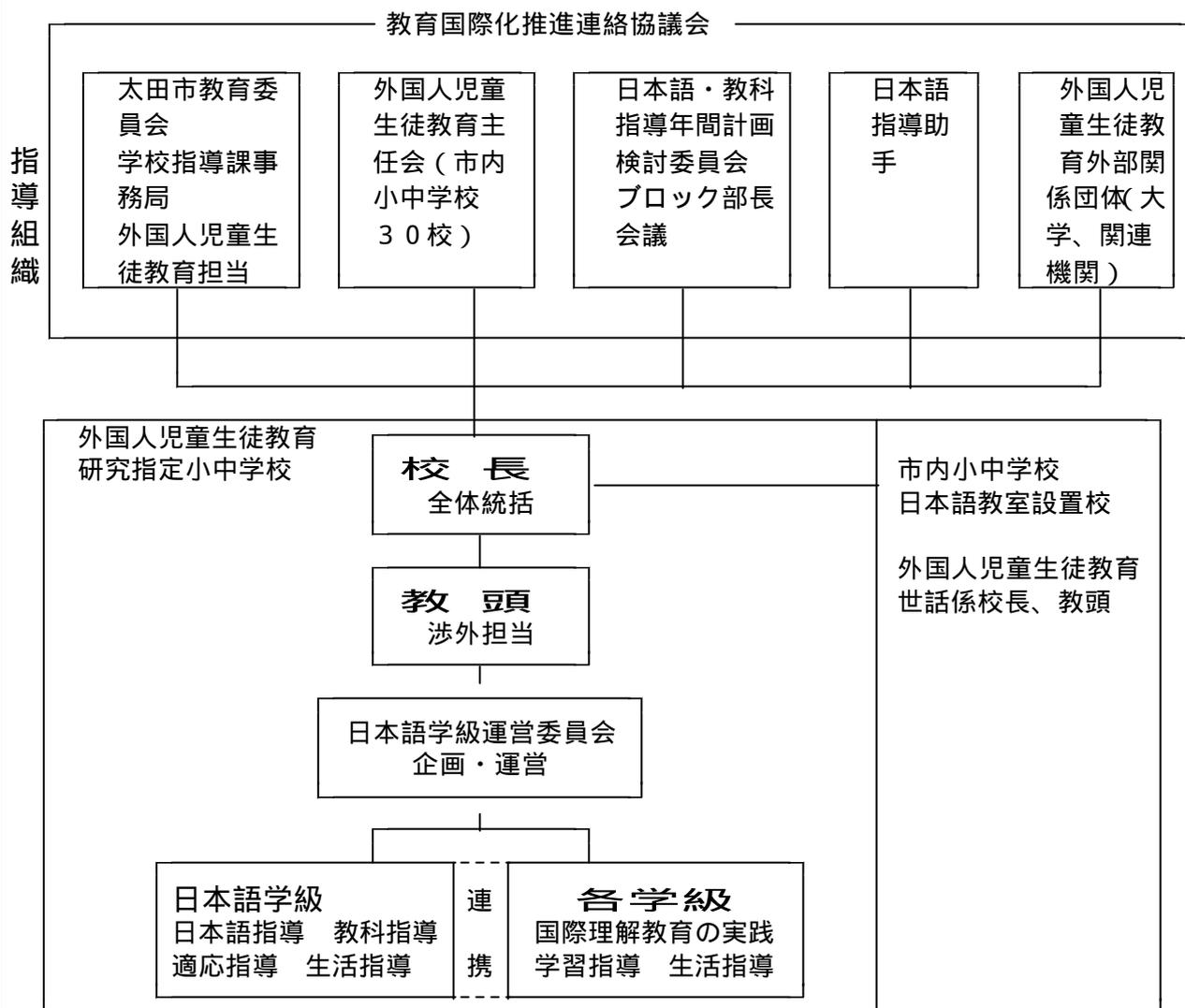
### 国際化推進地域における体制の整備

#### 1 教育国際化推進連絡協議会の概要

##### （1）構成員及び各構成員の連絡協議会内における役割

##### 構成員

- ・日本語指導教室担当教諭（県特配教諭18人）
- ・外国人児童生徒教育主任30人（指導教室担当教諭含む）
- ・日本語指導助手（ポルトガル語9人 ス페인語2人 中国語1人 韓国語1人）
- ・太田市教育委員会学校指導課担当職員
- ・外部関係団体等



(2) 協議会における活動内容と成果

外国人児童生徒教育主任会を中心とした、日本語指導教室担当教員、日本語指導助手、バイリンガル教員の連携により、ブロック別集中校システムを開始することができた。特に学校では、担任との連携強化が、外国籍の児童生徒の学力向上につながった。どのレベルで母学級に返し、独り立ちさせられるかさらにその時期やレベル、判断のためのテスト等を明確にしていけることが課題である。

ブロック部長会議の開催により、部長のリーダーシップや連携が生まれてきたことは大きな成果である。また、主任会の活動も昨年度よりも活発な意見が出され、集中校システムの改善充実がなされてきた。

今年度は年5回の主任、指導助手、バイリンガル教員、代表教頭向けの日本語指導法研修会を開催した。特に、ブロック内の世話係代表教頭の参加によ

り、管理職との情報交換や連携も図られるようになったと言える。  
 いか、日本語指導教室が充実できるかは、学校内の位置づけを管理職が明確にし、全職員を巻き込んだサポート体制作りができるかに係っている。その認識が教頭先生を中心に高まり、ブロック間の情報交換もスムーズに実施できるようになったことは大きな成果である。

## 2 国際化推進センター校の概要

### (1) Aセンター校(小学校)

学校名：		担当教員名：			
TEL：		FAX：			
住所：					
HP：					
	帰国児童生徒	1人			
	外国人児童生徒	ポルトガル語	45人	その他	2人
		スペイン語	4人		
		タガログ語	2人		
		中国語	1人		

### (2) Bセンター校(中学校)

学校名：		担当教員名：			
TEL：		FAX：			
住所：					
HP：					
	帰国児童生徒	0人			
	外国人児童生徒	ポルトガル語	9人	その他	人
		ロシア語	1人		

## 3 国際化推進校での指導内容等

### (1) Aセンター校

日本語能力	指導を開始してからの期間	年齢	指導内容
日常会話以外 (教科学習等) も可能	6ヶ月 ~ 72ヶ月	6才 ~ 13才	(教室で学習しているが、よく分からない、またはもっとできるようにになりたいという児童生徒が対象) ・国語の教科書を完全に読みとり、教科書にでてくる漢字の読み・書きができるようにする。 ・個々の児童の到達段階における算数の学習をする。
日常会話が可能	6ヶ月 ~ 36ヶ月	6才 ~ 13才	・少し難しい日本語や、自分の学年の国語や算数を中心に学習する。 ・簡単な作文を書いたり、国語の教科書にでてくる漢字の読み書きを学習したりする。 ・かけ算九九、少し難しい足し算、引き算、かけ算、わり算、図形の学習をする。
日常会話も困難	1ヶ月 ~ 12ヶ月	6才 ~ 13才	・来日してまもない初めて日本語を学ぶ子どもや日本の学校で初めて学ぶ子どもを対象にして、日本語の基礎を学習する。 ・ひらがな、カタカナの読み書き、日常生活や学校生活に必要な日本語会話の学習をする。 ・低学年の国語教材の学習をする。 ・算数では、日本語での数字の読み書き、足し算や引き算のやり方や簡単な単位を学習する。

## (2) Bセンター校

日本語能力	指導を開始してからの期間	年齢	指導内容
日常会話以外(教科学習等)も可能	4ヶ月	14才 15才	数学 小学校の内容、かけ算九九、分数 数学 中学校の内容の補習
日常会話が可能	0ヶ月 ~ ヶ月	14歳	漢字 小学校1年からの音訓 数学 小学校内容計算問題チェックから 英語 中1の内容
日常会話も困難	8ヶ月 5ヶ月	14才 ~ 13才	ひろこさんの日本語1、2 数学 小学校内容計算問題から教科書の内容 英語 教科書 ひろこさんの日本語1、2 数学 小学校内容計算問題から教科書の内容 英語 教科書

平成16年度の具体的な取組とその成果について

### 1 研究趣旨を達成するために実施した活動及びその成果

太田市は、「外国人児童生徒教育における教科・日本語指導の研究」～習熟度別指導、

母語による付加的指導、個に応じた指導計画の充実改善～という研究主題のもと、習熟度別の指導方法について研究を推進してきた。

従来、児童は学級での理解が難しい教科の時間を、日本語学級の取り出し時間に当て日本語指導や教科の補充として指導を受けてきた。しかし、同じ学年でも個々により習熟度や課題が違い、じっくりと個々の課題に向かえないという問題があった。また、日本語をほぼ習得した児童が、学級に戻った場合も、基礎基本の遅れから、なかなか学級の授業についていけない現状があった。このような状況では、学習意欲が高まらないだけでなく、学習に適応できない児童が増加してしまい、個々の児童の学力向上を保障するための教育課程の編成や実施が難しいのが現状であった。

そこで、学年にとらわれない習熟度別グループにおける系統的・継続的な指導体制新カリキュラムを編成した。また、児童が「知識・理解」における到達目標を明確にし、積極的に学習に取り組むことができるようなカリキュラムを構想し学力の向上を図れるように努めてきた。これらの実践を通して、学習への意欲を高め、学習面での習得や習熟を図れるように意図し、さらに放課後は、通級をしていない外国人児童に対しても、算数の補習授業を行い、バイリンガル指導を取り入れることで「数学的な思考」の観点においても指導援助をした。

今年度実施した本研究に関わる主な実施事業は、以下の通りである。

- ・センター小中学校指定研究
- ・太田市外国人児童生徒教育主任会及び担当者会議（指導助手・バイリンガル教員含む）
- ・ブロック別集中校ブロック部長会議
- ・太田市市内小中学校在籍外国人児童生徒保護者向け進路説明会実施（学校指導課担当）
- ・外国人児童生徒教育担当教員・日本語指導助手日本語指導法研修会（学校指導課担当）
- ・サマースクール（夏期に各ブロック独自に実施）
- ・サタデーチャレンジスクール（土曜日課外予習授業）
- ・プレスクール（新1年生対象）
- ・ブロック別集中校システム研修会（学校指導担当）
- ・日本語指導年間計画作成
- ・進路ガイダンス
- ・センター校放課後補習授業実施
- ・ブラジル人学校との連携協力（体育施設の斡旋）
- ・3町合併による組織再編検討
- ・企業との連携

以上のような事業を実施することで、児童生徒の日本語能力の伸張はもちろん、教科学力の向上が図れたと言える。これは、組織を明確にし、目標を持って指導にあたる教員や支援者が増えたことも大きな要因である。また、保護者や企業との連携も次第に高まりを見せて、サタデースクール・プレスクール・進路ガイダンスには、多くの保護者も参加し、大人も巻き込んだ教科、日本語、進路学習を展開することができた。進学率については、平成14年度が50%、平成15年度が、62%、平成16年度は、77%と向上してきた。今後の課題としては、指導者の指導力の向上すなわち資質向上が鍵になる。また、その向上のための研修会の実施の工夫や他県・他市の情報をいかにとりいれられるかが課題であると言える。

## 2 本事業担当教員の国際化推進地域内の教育体制における役割及び活動

教育長	太田市長	県 県教委
-----	------	----------

教育委員会事務局  
外国人児童生徒教育  
学校指導課担当指導主事

企画部  
総合政策担当  
市関係部署  
国際交流係

県国際交流協会  
大学・大学院  
高校（フレックス高校等）  
研究機関・NPO  
JICA・ブラジル  
ブラジル銀行

活動内容  
企画立案  
連絡調整  
課題処理  
検証計画  
広報活動  
事務処理  
指導助言  
外部対応  
情報収集  
カウンセリング  
学校訪問  
市の研修

STUDENT  
幼稚園・小学校・中学校の外国人園児・児童・生徒

TEACHER  
校長会  
外国人児童生徒教育主任会  
（世話係校長・教頭）  
7ブロック別代表教頭  
7ブロック部長教諭  
集中校日本語教室担当教諭  
集中校日本語指導助手  
集中校バイリンガル教員  
JICA 日本語研修生（7名予定）

1 具体的活動内容 指導主事の指示下 重点活動

企画立案 ブロック別集中校の担当者研修  
バイリンガル教員対象研修  
児童生徒のための行事（漢字カルタ大会・スピーチコンテスト等）  
サタデーチャレンジスクール、サマースクール、プレスクール等

連絡調整 教育委員会内部との折衝及び連絡  
市長部局との折衝及び連絡  
校長会における外国人児童生徒教育主任会との連携  
ブロック代表教頭との連携  
ブロック担当教諭・指導助手との連携  
バイリンガル教員への連絡  
ブラジル人学校との連携  
ブラジル銀行等の企業との連携  
新聞・雑誌・テレビ局・ラジオ局等の連携（ブラジル TV・ラジオ）  
翻訳文書のウェブサイトの作成、管理・調整（17年度）  
JICA 研修員の研修内容に係わる学校現場との調整（17年度）

課題処理 ブロック別集中校における教育課題への対応  
園児・児童・生徒の生活適応・学力向上における課題  
指導者の指導法等の課題（特に7名のバイリンガル教員及び研修員等）  
ブロック別集中校における指導者の移動、食事、指導時間等の勤務上の課題  
研修会における課題  
サタデースクール・サマースクール・プレスクール等における課題  
保護者の問題  
その他

検証計画 ブロック別集中校の生活適応及び日本語力及び学力向上のための検証計画  
ブロック別集中校の効果的な人的な配置への検証  
保護者の意識の検証  
母学級の教員の意識の変容の検証  
教育体制にかかわる他市との比較上の検証  
その他

広報活動 市内幼稚園・小中学校児童生徒・職員への通知・案内  
新聞・雑誌・テレビ・ラジオ局の協力依頼

	集中校システム（サタデー・サマー・プレスクール含む）のパンフレットの作成・充実
	進路ガイダンス、保護者とのふれあい会等
	大学・大学院・研究機関・NPO との情報交換
事務処理	派遣依頼等通知物作成
	検証結果のまとめ処理
	講師招へい等への連絡
	視察対応
	バイリンガル教員・研修員の復命処理
指導助言	サタデー・サマー・プレスクール等の準備及びまとめ
	日本語指導助手・バイリンガル教員・研修生への指導
	日本語教室担当教員へのサポート
外部対応	他県及び市町村の教育システムの最新情報の伝達
	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ等広報機関への対応
	視察対応受け入れ
	大学・大学院・研究機関・NPO への対応
	ブラジル日本語センター、日系人協会等との対応
	JICA との連携
	その他
情報収集	外国人園児・児童・生徒の実態把握のための情報収集
	各学期の実態にかかわるレディネステスト等含む
	各幼稚園・小中学校・懇談会・保護者・家庭等からの情報収集
	外国人児童生徒教育にかかわる先進的教育推進地域の情報収集
	集住都市会議への参加
	太田市国際交流協会及び他県・市町村の国際交流協会との情報交換
カウンセリング	
	指導者の悩み相談（バイリンガル教員・研修生等）
市の研修	夏休み中（7月21日から8月31日の間）サマースクールは事前計画
	短期の研修会には、調整して参加

以上のような体制及び活動計画の中で、

日本語指導教室担当教員が、バイリンガル教員と連携し、初級、中級、上級レベルでの習熟度別指導の工夫改善を図ってきている。指導教室担当教員は、入級調査を初め、ブロック別集中校内の時間割やカリキュラム（日本語、算数、数学、英語、その他）日本語指導助手・バイリンガル教員の統括及び指導を中心に活動してきている。また、ブロック部長が、先頭に立ち、ブロック内の課題解決、情報交換を積極的におこなってきている。また、管理職や市教委との連携も密にし、集中校システムの改善充実に寄与してきている。上記でも述べたように課題としては、いかに母学級との連携をはかり、個人差に応じた取り出し指導体制、入り込み指導体制、補習授業体制、サマースクールなどを計画できるかである。日本語指導助手（ポルトガル語、スペイン語、韓国語、中国語）は、通訳、翻訳を中心に、担当教員とのサポート、児童生徒の心への対応（生活適応指導）保護者への連絡、家庭訪問などを中心に活動してきている。文化の違いに目を向け、きめ細かな指導を実践していく必要がある。課題としては、日本語指導、教科指導面での指導内容・方法についての研修が必要になる。

バイリンガル教員（日本語、ポルトガル語併用による上級レベルでの言語運用能力のある教員：単独教科指導可）は、日本語、教科（算数、数学、英語その他）指導を母語を使いながら指導してきている。どの場面や時間帯で、母語にシフトするかは今後の研究課題になる。また、初級レベルでの指導では、母語使用が効果的であるが、中級や上級レベルでは、母学級で受ける教科の取り出しで大きな課題があるので、慎重な調査や検討が必要になる。虫食いの状態で授業を母学級で受けることで、逆に学習意欲を低下させてしまう可能性がある。入り込み指導

や放課後指導を実態に応じて、計画することで課題解決を図っている段階である。また、ブラジルの文化的な背景や教育内容を学校に伝え、共生的な視野を広げるのにも活躍してきている。今後、バイリンガル教員をいかに活用できるかが課題である。